

令和7年度 岡山県人権学習充実拠点校事業

自分のやってみたいことにのびのびと挑戦できる子どもをめざして

～思いを伝え仲間と共に育ち合う～



吉備中央町立円城こども園

教育及び保育の目標

健康でたくましい子ども

思いやりのある子ども

考えて挑戦する子ども

研究の概要

1 研究主題

自分のやってみたいことにのびのびと挑戦できる子どもをめざして
～思いを通わせ仲間と共に育ち合う～

2 主題設定の理由

○ 園児の実態について

明るく優しい園児が多い。令和6年4月開園当初の園児数は19名であったが、転園児や年度途中の入園児等で園児数が増加し令和7年度当初は38名になった。少人数の園のため日々の園生活は穏やかで、自分のペースでしたいことを楽しみ、親しみの気持ちをもって人とかかわることができているが、慣れていない活動や人、場所や状況に緊張してしまう傾向が見られる。

遊びの場では、自分の興味のあることに自分からかかわってみることができるが、自信がないことや失敗することを避けようとする園児が多い。また、好きな遊びの時間には、異年齢の友だちで同じ遊びを楽しむことが多いが、友だちより保育教諭を遊びの仲間に求めたり、困ったことがあると言葉にできず保育教諭の助けを求めたりする姿が見られる。

集団での活動が苦手な場を離れたり、したくないことはしないと主張したりする園児がいる。一人一人の気持ちを受け止めながら思いに寄り添って対応してきたことで、少しずつ自分の気持ちを言葉で伝えたり園生活の流れを意識したりする姿が見られるようになってきている。少しずつ遊びの振り返りの時間やみんなで話し合う時間をもつことで、友だちの気持ちや園生活で共有する約束の意味に気付いていけるようにしたい。

○ 研究主題について

本園では、日々の保育の中で“自分で考えて自分で決める”ことを大切にしている。園児は、穏やかに園生活を送ることができているが、互いに意見を主張し合って遊びを進めることは少なく、保育教諭の助けを求めながら自分のしたいことができれば満足するという傾向がある。

そこで日々の園生活の中で、どうすれば楽しく遊びながら園児の考えを引き出し、子ども同士で意見を伝え合い、工夫することができるのか考えた。そのためには、自分達で考えて工夫しないと実現できないような状況や環境を設定したり、課題が生まれた際にみんなで考えることができる援助を行ったりすると仲間と共に育ち合うことができるのではないかと考えた。

3 研究の概要

本研究では、人権教育の視点で研究を進めていくために「こども基本法」の基本理念にあげられている「全てのこどもについて、年齢及び発達 の程度に応じ、自己に直接関係する全ての事項に関して意見を表明する機会・多様な社会活動に参画する機会が確保されること」という事項に着目した。

そこで子どもが“自分の権利を行使”する視点から、自らの遊びや生活を豊かにしていくためには、何をして遊びたいか、どのように遊びたいか、誰と遊びたいか等を考え、自分で決めたことを声に出して伝えたり、どうすれば実現できるか考えたり、友だちとアイデアを出し合ったりできることが大切ではないかと考えた。

また、集団生活を通じて“他者の権利を尊重する意識を育む”視点から、子どもが良い行動を褒められたり認められたりすることや、子ども同士で遊びを進める経験をすることが、仲間を理解したり大切にしようとしたりする気持ちを育むのではないかと考えた。

4 研究仮説

本研究では、人権教育の視点で研究を進めていくために“自分の権利を行使する”視点と“他者の権利を尊重する意識を育む”視点から実践を行い、その内容を検証していくために次の4つの仮説を立てた。

「自分の権利を行使していくための仮説」

A-①「いいね、やってみよう!」「どうやってみる?」を保育教諭の合言葉にして、子どものやってみようとする思いに寄り添い応答すると、自分の思いや願いを言葉で伝える力が育まれるのではないかと考えた。

A-②「やってみたい!」と思える環境を保育者が意図的に展開したり、子どもの「やってみたい!」を実現できるように遊びの環境を整えたりすると、子どもは遊びへの意欲を高め、自分の思いを主張する機会が増えるのではないかと考えた。

「他者の権利を尊重する意識を育むための仮説」

B-①「ありがとう!」「うれしかったよ!」という言葉で保育教諭が子どものよい行動を褒めたり認めたりすることは、相手の思いや周りの人のことを考えて行動しようとする意識を育むのではないかと考えた。

B-② 異年齢のかかわりも含めて子ども同士で遊びが進められる環境を作り出すと、自分より小さい友だちの手本となったり思いやったりする機会が増え、仲間を理解する力や大切に考えようとする気持ちが育まれるのではないかと考えた。

5 研究仮説を意識した公開保育

3歳児 もも組 指導案

令和7年10月7日(火) 男児1名 女児8名 計9名

1 子どもの姿と保育教諭の願い

9月末には運動会があり、友だちと一緒にかけっこやダンス、転がしドッジボールをして体を動かすことを楽しんできた。遊びを楽しむ中では、一人一人が「かけっこで速く走りたい」「可愛く踊りたい」「ボールに当たらずに逃げたい」など、自分の目標をもって取り組むことができ、家族や保育教諭に認められることが達成感へと繋がった。

好きな遊びの中でも友だちや保育教諭と一緒に体を動かして遊ぶことを楽しむことができるように、異年齢の友だちと一緒に参加できる鬼ごっこ、「おおかみとぶた」の場を設定している。繰り返し遊びを楽しむ中でだんだんとルールが分かるようになり、異年齢の友だちの中でも「がんばるぞー」や「たすけて」などの思いを言葉にしなが、自分の力を十分に発揮して遊びを楽しめるようになってきた。時には最後まで逃げ切れたり、年上の友だちを捕まえたりすることもあり、満面の笑みでできたことを伝えに来る。そんな時には3歳児のペースにも配慮してくれる年上の園児の優しさに感謝しつつ、自信となるようにできたことの喜びを全身で受け止めながら共感している。困ったことがあった時には、年上の友だちに相談できるようにし、一緒に考えてもらうことで異年齢の友だちのよさを感じたり、安心してかかわりをもったりできるように丁寧な仲立ちを心掛けている。

進級当初から、ジュースやアイスクリームなど、園児から提案されたものは「やってみよう!」と園児と一緒に挑戦してきた。できたものを友だちと共有して遊べることを願って保育室にはお店コーナーを作り、一緒に食べるパーティーを開いたり、お店屋さんごっこをしたりすることへ発展している。昼寝の前などには、異年齢の園児もやってきて一緒にやり取りを楽しむ姿も見られる。園児のアイデアを取り入れることで、自分達で遊びを発展していける形には、自然に親しみながらかかわる姿が多く見られるため、今後もこのような流れを大切にしていきたいと思う。

夏に水遊びから泡遊びに展開した遊びが、9月には泡をクリームに見立て、ケーキを作る遊びへと発展していった。9月後半には、泡を紙粘土のクリームに移行してみたが、遊びの中心になった3歳児には、クリームとして取り扱うのが難しい姿が見られた。そこで、自然物や紙粘土を材料にして段ボールの台紙の上にボンドで飾り付けてみる遊びを準備してみると、以前の経験からボンドをクリームのように使う様子が見られた。現在は一人一人の遊びの姿を見守りつつ、異年齢児がしている遊び方を見たり保育教諭と一緒に使い方を試したりしながら、自分の“作ってみたい”という思いをもてるようにしていくことでより豊かな満足感や学びを得られる遊びにしていきたいと考えている。

2 本日のねらいと内容

○友だちや保育教諭と一緒に遊ぶ中で、自分の思いを言葉や身振りで表現し、友だちや保育教諭に伝わる嬉しさを味わう。

- ・好きな遊びの中で、保育教諭や友だちに伝えたい思いをもつ。
- ・自分なりの方法で思いや要求を伝えようとする。

3 評価の観点

- ・園児は、友だちや保育教諭と一緒に遊ぶ中で、自分の思いを言葉や身振りで伝えようとするこ
とができたか。
- ・保育教諭は、園児の思いを受け止めたり、共感したりしながら応答的にかかわることができた
か。

4 本日の生活の流れ

()内の視点は「4 研究仮説」を参照

時間	予想される園児の活動	◇環境設定と○保育教諭の援助
9:30	<p>○好きな遊びをする。</p> <p>鬼ごっこ(おおかみとぶた)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友だちや保育教諭と仲間になる楽しさを味わいながら、逃げたり追いかけたりする。 ・捕まえることができたことや逃げ切れたことで味わう喜びを「やったー」や「走るの速かったんで」等の言葉で表現する。 <p>製作遊び</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボンドの使い方に気付き、材料を貼りつけて遊ぶ。 ・自分のイメージを友達や保育教諭に伝えながら、自分の作品作りを楽しむ。 <p>虫探し</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の気持ちを言葉で伝え、異年齢児の捕まえた虫を見せてもらったり、触らせてもらったりする。 	<p>○鬼ごっこでは、保育教諭も遊びの仲間となり「たすけて」の言葉に対し「今行くね」と伝えたり、助けてくれた園児に対し「助けてくれて嬉しいよ」等の気持ちを伝えたりすることで、思いが伝わる嬉しさを遊びの中で味わえるようにする。 (A-①) (B-①)</p> <p>○困ったことがあった時には、作戦タイムの中で年上の友だちに相談し、一緒に考えていくことができるようにする。(B-②)</p> <p>◇豊富な材料を用意し、好きなものを選んで使えるようにすることで、自分のイメージを表現して遊ぶ楽しさを感じる。(A-②)</p> <p>○保育教諭も一緒に遊びの仲間となり、「やってみよう」と園児の思いやアイデアの面白さを共感しながら、必要な材料を選んだり一緒に作ったりして、満足感を得られるようにする。(A-①)</p> <p>○思い通りいかず、困っている園児には、「これは、どうしたらいいのかな」と周囲の友だちに相談したり、一緒に考えたりできる援助を行うことで安心感を得たり友だちのよさを感じたりすることができるようにする。(B-①) (B-②)</p> <p>○道具の貸し借りに必要な言葉がまだ身に付いていない園児には、「〇〇ちゃん貸して」「ありがとう」と保育教諭が手本となったり、一緒に言ったりすることで気持ちが伝えられるようにする。 (A-①) (B-①)</p> <p>○友だちが見つけた虫を見たり、触ったりしたい時には「見せて」や「触ってみたい」等の思いが伝えられるよう仲立ちをする。また、「見せてくれてありがとう」「見せてもらってうれしいね」等それぞれの気持ちに寄り添い、かわりがもてるようにする。(B-②)</p>
10:30	○片付けをする。	◇片付けの時間に印を付け、5分くらい前に「あと

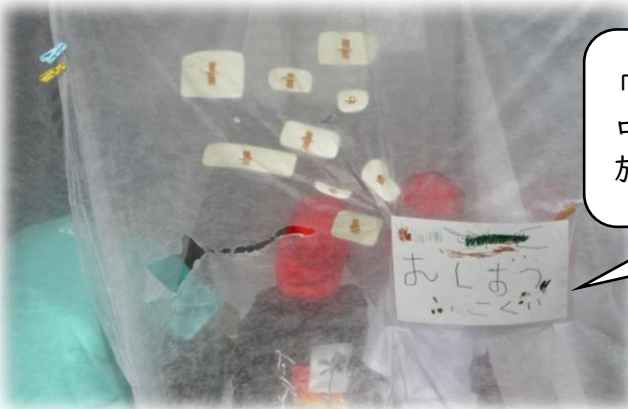
<p>10:50</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・片付け方が分からない時には、保育教諭や友達に確認しながら、自分の使ったものを元の場所へ戻す。 ・保育教諭と一緒に「これどうやって片付けようか?」ということを自分なりに考えながら片付けに参加する。 <p>○きらきらタイムをする。 バランスタワーゲーム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友だちと協力したり一人で頑張ったりなど、自分のペースで高く積みおむことを楽しむ。 ・それぞれの積み上げた高さを見比べ、感じたことを自分の言葉で表してみる。 	<p>少しでお片付けだよ」と伝えておくことで見通しをもって遊ぶことができるようにする。</p> <p>○きらきらタイムでは、チームで高さを競うゲームを行っている。「がんばろう!」「エイエイオー!」と言っているがゲームが始まると一人で黙々と取り組む園児が多い。一人で頑張る姿を認めつつ、「どうやったら高く詰めるかな」「○○のチームはどうやっているのかなあ」と声を掛け、周囲の友だちの遊ぶ姿も関心がもてるようにする。 (A-①)</p> <p>○いざこざが起きた時には、その都度互いの思いを聞き、思いに寄り添ったり、相手の思いを知らせたりすることで、自分の思いを表現したり相手の思いを知ることができるようにする。(A-①)</p>
<p>11:20</p>	<p>○ 給食準備をする。</p>	



虫探し



鬼ごっこ「おおかみとぶた」



「おしおこく」というスペースがあります。中では、図鑑で虫を調べることができたり、放して様子を見たりすることができます。

4歳児 きく組 指導案

令和7年10月7日(火) 男児6名 女児4名 計10名

1 子どもの姿と保育教諭の願い

身体を動かして遊ぶことが好きな園児が多く、天気の良い時は、園庭で友だちを誘って「おおかみとぶた」を遊ぶ姿が見られる。しかし、やりたい気持ちは強いが、園児だけでは捕まって悔しい気持ちになり、チームが負けた悲しみをフォローすることができないため、遊びを繰り返し続けることは難しい。現在は保育教諭が一人一人の喜びや悔しさに共感しながら遊ぶことで、遊びを継続している。今後はモデルとなれる声掛けを積み重ねていくことで、園児だけでも声を掛け合いながら気持ちを高めて遊びを続けられるスキルを育てていきたい。

おうちごっこでは、一人の園児が段ボールを持ってきて冷蔵庫を作ったことで他の園児も材料を家から持ってくるようになり、「洗濯機を作りたい」や「トイレを作りたい」などと色々なアイデア出しながら遊んでいる。保育教諭も一緒に活動をしていると、他の園児も興味をもつようになり、「一緒にやってもいい？」と声を掛けたり、「どうする？」や「こうしてもいい？」などと言葉を交わしながら協力したりすることができるようになってきた。引き続きやってみたい気持ちをしっかりと受け止め、園児の思いを引き出しながら意欲的に自分のしたいことを取り組むことができるようにしていきたい。

年中組の約半数は、今年度新しく入園してきた園児である。4月当初は在園児同士で集まって遊び、新入園児は保育教諭と一緒に遊ぶ姿が多かった。保育教諭が仲立ちとなって様々な園児同士がかかわることができるようにしてきたことで、名前を覚えた友だちが登園することを楽しみにしたり、「一緒に〇〇しよう!」と誘って遊ぼうとしたりする姿が見られるようになってきた。園児の中には、頼られることが嬉しく、「一緒に〇〇しよう!」と自分が中心となって遊びを進めていこうとする園児がいるが、嫌なことがあると「もう知らん!一緒に遊ばんから!」とすぐに怒ってしまう姿も見られる。また、徐々に園生活に慣れ、最近になって友だちとかかわりがもてるようになってきた園児もいる。同じ年齢でも発達のパースには差を感じることもある。園生活では、保育教諭が一人一人のありのままの姿を受け止めながら、それぞれの今の育ちや思いを大切にしていけることで、集団生活の場が安心できるものにし、互いを大切にしていける気持ちを育てていきたい。

2 本日のねらいと内容

- 周囲の環境や友達とかかわりながら自分のしたいことを楽しみ、遊びの中で感じた思いや考えが言葉で伝えられる喜びを味わう。
- ・一緒に遊ぶ友だちや保育教諭に自分なりの言葉で思いや考えを伝えてみる機会をもつ。

3 評価の観点

- ・園児は、自分が感じた気持ちを言葉にして、保育教諭や友だちに伝えることができたか。
- ・保育教諭は、“やってみたい”気持ちを言葉にして引き出し、自分の考えを表現することができた言葉かけや援助ができたか。
- ・保育教諭は、相手の思いに気づくことができるよう、“ありがとう”や“うれしかったよ”などの言葉を積極的に伝えることができたか。

4 本日の生活の流れ

()内の視点は「4 研究仮説」を参照

時間	予想される園児の活動	◇環境設定と○保育教諭の援助
9:30	<p>○好きな遊びをする。</p> <p>鬼ごっこ(おおかみとぶた)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チームの仲間と同じ目標をもって遊ぶ。 ・ぶたとおおかみの数を把握して自分の役を考えたり選んだりする。 ・仲間を助けたり、逃げたり、捕まえたりするなど、協力して遊ぶことを楽しむ。 <p>製作遊び</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然物や紙粘土などを使って自分が作りたいものを表現することに挑戦する。 ・できた物を友だちや保育教諭に見てもらう。 <p>虫探し</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友だちと一緒に虫を探しに行ったり、捕まえたりする。 ・捕まえた虫を友だちと一緒に見たり、触ったり、調べてみたりする。 	<p>◇鬼ごっこでは、音楽を用意することで1回の遊びの区切りが分かりやすいようにする。(A-②)</p> <p>○園児同士で声を掛け合いながら役を決めている姿を認めていくことで、自分の思いを言葉で伝えながら遊びを進めていけるようにする。(A-①)(B-②)</p> <p>○いざこざがあった時は、落ち着けるようにスキンシップを行い、それぞれの思いを聞きながら仲立ちに入り「どうしたらいいかな?」など、周りの園児にも相談しながら一緒に解決できるようにする。(B-②)</p> <p>○友だちと協力して捕まえることができたことや最後まで逃げ切れた喜びに共感することで、遊びの面白さを感じたり、意欲的に遊びに取り組んだりすることができるようにする。(A-①)</p> <p>○うまくいかないことや困ったことなどは、その都度話し合う機会を設け、ルールを変えたり、再度遊び方を確認したりする援助を行う。(B-②)</p> <p>◇どんぐりや小枝、落ち葉など、園児が思わず手に取って使いたいと思える様々な自然物を用意する。(A-②)</p> <p>○製作では、「何を作っているの?」や「どうやって作ったの?」などと声を掛けることで園児の思いを引き出し、「上手にできているね!」など、それぞれの工夫やアイデアの面白さに共感する。また、「この○○がいいね」などと具体的に褒めることで達成感や満足感を味わうことができるようにする。(A-①)</p> <p>○虫捕りでは、友だちと一緒に探しに行くことに楽しみをもっている。「どんなところにいるかな?」「どんな虫がいるかな」など声を掛け、友だちと思いや考えを伝え合いながら楽しむことができるようにする。(A-①)(B-②)</p>
10:30	<p>○片付けをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育教諭や友だちと一緒に片付けをする。 ・片付けが終わってない場所を手伝いに行く。 	<p>◇片付けの時間は、見て分かりやすいように時計にマークを付け、見通しをもてるようにする。(A-②)</p> <p>○片付けでは、頑張っている姿に対して「ありがとう。助かったよ」と言葉で伝えることで自信をもったり、役に立つ嬉しさを感じたりして片づけを行えるようにする。(B-①)</p>

<p>10:50</p>	<p>○きらきらタイムをする。 バランスタワーゲーム ・友だちと一緒に様々な大きさの箱を高く積み上げることに挑戦する。 ・積み上げた箱の高さを紙テープで測ってもらい、他のチームの長さで見比べ、気づいたことなどを伝えてみる。</p>	<p>◇箱の数や大きさなどを調節し、参加する園児全員が楽しむことができるようにする。(A-②) ○「がんばれ!」と応援したり、高く積み上げたチームに「すごく高いのができたね!」などと褒めたりして、頑張ったことへの満足感やもっと高いのをしてみようなど自分なりの目標をもって遊びに取り組めるようにしていく。(A-①) ○遊びの約束等で困ったことがある時はみんなで話し合って再度ルールを確認し、約束を守って遊ぶことの大切さを感じたり考えたりできるようにする。(B-②)</p>
<p>11:20</p>	<p>○給食準備をする。</p>	



製作遊び



片付け



様々な自然物が整理整頓されています。「触ってみたい」「使ってみよう」と思える環境設定がされています。

5歳児 ばら組 指導案

令和7年10月7日(火) 男児6名 女児3名 計9名

1 子どもの姿と保育教諭の願い

小学校と合同の運動会では、かけっこで力いっぱい走ったり、ダンス・転がしドッジではリズムに合わせて体を動かしたり、小学生の転がすボールに当たらないよう避けたりして、それぞれの楽しみを見つけて取り組むことができた。普段と異なる雰囲気や注目を集めることに緊張する園児がいたが、友だちのために役割をもって取り組み、「これならできる」「楽しめる」という参加の仕方ですべての園児が取り組むことができた。運動会で味わった友だちと一緒に体を動かす楽しさを遊びの中でも感じられるようにしていきたいと考えている。

異年齢児が参加している鬼ごっこ「おおかみとぶた」では、友だちと追いかけて合ったり友だちを助けるために走ったりする楽しさを味わっている。年長児が遊びに入ると遊びにスピード感が生まれたり遊びの中で勝つための作戦を考えたりして遊びを進めることができています。一方で、思いを伝え合う場では自分の思いを伝えて満足し、友だちの思いに気づいたり理解しようとしたりすることに難しさを感じることもある。自分の思いを伝えながら友だちの思いを受け入れ、楽しさを共有できる遊びにしていきたい。

夏から楽しんできた泡遊びが一段落し、自然物が中心の製作遊びへと変化しました。紙粘土の感触を楽しんだりドングリや小枝等の自然物を飾ったりして食べ物に見立てて遊ぶようになってきている。興味のある遊びを通して思いや考えを巡らせ、自分なりの表現を楽しめるようにしたい。また、園児同士で作品の作り方を教え合ったりお店やさんごっこの経験から作った作品を並べて友だちとのやりとりを楽しんだりすることで、友だちとのつながり作りをしていきたいと考えています。

本クラスは自分の思いを伝えることはできるが、友だちの話に関心を示しにくく話を聞くことができにくい傾向があり1学期には振り返りを行うことが難しかった。2学期からは降園前に短時間で集まることから始め、どんな遊びをしたか、遊びの中でどんなことに気が付いたか、今後の遊びをどのように進めていきたいか等について思いを伝える振り返りをしてきた。友だち同士のつながりが感じられることを意識した振り返りをする中で、自分の思いを伝えながら友だちの思いに触れたり理解しようとしたり課題解決のために一緒に考えたりしようとすることができてはじめています。友だちに思いを伝えたり友だちの思いを聞いたりしたくなるような遊びの経験を友だちと共に重ね、仲間意識を育てていくことで友だちを大切にしようとする思いを感じられるようにしたいと考えています。興味のある遊びをする中で友だちとかかわり、思いや遊びを進めていく楽しさを味わえることをねらいとし保育を進めていく。

2 本日のねらいと内容

○興味のある遊びをする中で、友だちと気持ちや考えを伝え合いながら遊びを進める楽しさを味わう。

- ・自分の考えやイメージを友だちに分かるように伝えたり、友だちの考えを受け入れたりする。
- ・友だちとのかかわりの中で、相手の気持ちに気づく。

3 評価の観点

- ・園児は、好きな遊びをする中で、友だちと思いを伝え合いながら遊ぶ楽しさを味わうことができたか。
- ・保育教諭は、園児が自分のやってみたいことに取り組み、遊びの楽しさや友だちとのかかわりを楽しめるような援助や環境構成ができたか。

4 本日の生活の流れ

()内の視点は「4. 研究仮説」を参照

時間	予想される園児の活動	◇環境設定と○保育教諭の援助
9:30	<p>○好きな遊びをする。</p> <p>鬼ごっこ(おおかみとぶた)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友だちとスピード感を味わいながら追いかけ合う。 ・自分の考えを友達に提案しながら遊びを進める。 <p>製作遊び</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然物や紙粘土を使って自分のイメージを形にしてみる。 ・できた作品や自分の工夫したことを紹介できるようにする。ボンドの使い方が分からない年下の友だちには、手本になったり優しく知らせたりできるようにする。 <p>虫探し</p> <ul style="list-style-type: none"> ・捕まえた虫を観察したり図鑑で調 	<p>◇園児から遊び方やより遊びが面白くなる提案がある時には機会を逃さず話し合う時間を確保する。(A-①)</p> <p>○限られた場所で行う鬼ごっこでは、身を隠すことができる場を作ることで、遊び方を考え繰り返し遊びを進めていけるようにする。(B-②)</p> <p>○それぞれの遊びの中では、自分の思いや考えを伝えながら遊びを進めることができるようになってきているが、まだ言葉が足りないことで遊びを投げ出したり、言い合ったりしてしまうこともある。保育教諭がそれぞれの思いを受け止めながら、互いの思いや考えを理解したり受け入れたりできるようにすることで、仲間と同じ遊びを共有する楽しさを味わえるようにしていきたい。(B-②)</p> <p>◇園児同士で繰り返し遊びを進めていけるよう、音楽を使って1回の遊びの区切りを分かりやすくする。(B-②)</p> <p>◇自然物に親しみをもってかかわることができるように、ドングリや小枝等の自然物を準備する。また、紙粘土も用意することで、感触も楽しむことができるようにする。</p> <p>○気づいたことや工夫したこと等、園児の思いに寄り添い応答することで、自分の思いや願いを言葉で伝えられるようにする。(A-①)(A-②)</p> <p>◇捕まえた虫や図鑑を見て友だちと感じたことや気付いたことを伝えることができるよう、テーブ</p>

	<p>べたりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・虫が得意な友だちに捕まえた虫を捕ってもらう。 	<p>ルや椅子を用意する。(A-②)</p> <p>○虫探しを行う仲間にできるようになったことを認められ、頼られる喜びや、自分が苦手なことを仲間に助けてもらえる嬉しさを感じられるように、それぞれの言動を全体で共有していきたい。</p> <p>(B-②)</p>
<p>10:30</p>	<p>○片付けをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みんなで使った物や水筒を片付ける。 ・片付けをしている友だちの様子に気づき手伝う。 	<p>○片付けでは、友だちの手本となり率先して取り組む園児に「ありがとう」「嬉しかったよ」と褒めたり認めたりすることで、周りの園児にも望ましい行動を意識できるようにしたい。友達を手伝う姿には、相手のことを思う気持ちや仲間に支えられる心強さなど、互いの気持ちを感じられるようにしていく。(B-①)</p>
<p>10:50</p>	<p>○きらきらタイムをする。</p> <p>バランスタワーゲーム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高く積むための方法や役割分担を考えて遊ぶ。 ・今までの記録と比較し、気付いたことを伝え合う。 	<p>○バランスタワーゲームでは、「どうやったらうまくいかな?」「面白い作戦だね!」とより高く積み重ねるための遊び方を考えられるようにすることで、友だちと考えを伝え合いながらチームで協力できるようにする。(A-①)</p> <p>○集団の活動が苦手な園児が配膳の手伝いを希望した場合には、エプロンを着用し、年下の友だちの給食を運ぶことができるようにする。</p>
<p>11:20</p>	<p>○給食準備をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遊びから気持ちを切り替え、みんなで一緒に食べ始められるように準備を進める。 	



虫探し



バランスタワーゲーム